

## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

### 5 装飾芸術美術館の常設展示（2020年10月22日）

150年の歴史を持つ装飾芸術美術館は、全部で古代から現代まで57万点近いコレクションを有しており、常設展示では古代から現代までの装飾美術品の歴史を知ることができます。

フランス式4階にあるジャポニスムの展示室では、日本から影響を受けたフランスの陶器と日本の陶器を比較して展示しています。写真の右側にある蓋が付いたものが日本の茶入れで、左側はフランス製の花瓶です。これに蓋を付けたら、茶道具として使えそうです。



二つの花瓶が並んだ写真は、どちらが日本製でどちらがフランス製かお分かりになりますか？正解は、右奥が日本製で左手前がフランス製です。このように比べてみると、ジャポニスムと言われた19世紀に、ヨーロッパで日本美術に関する関心がいかに高かったかが分かります。



アールデコの素敵なステンドグラスは、日本の農村風景にも見える背景が、美しいデザインとして違和感なく取り入れられている素敵な作品です。

フランス式3階の近代や現代のデザインを紹介するエリアの中で、日本を特集した展示スペースが最近リニューアルされました。倉俣史朗のスチールメッシュの椅子や机を始めとして、10名近い日本の現代作家の陶器やガラスなどが展示されています。ゲームやおもちゃのデザインも紹介されています。



この美術館には、まだ展示されていない収蔵品がたくさんあり、多くの収蔵品を公開するために、定期的に常設展示も入れ替えを行うそうです。毎年、日本人作家も含めて新たな作品の購入も行っています。ぜひ常設展示もご覧になってください。ただし、



## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

とても広い美術館ですので、私が最初にこの美術館を訪問したときのように、作品に見入っているうちに閉館時間となってしまうようお願いください。